

# 成果発表会

## 留学生に英語でプレゼン 3年SGコース

3年SGコース成果発表会が7月12日(金)に開催されました。34Hの生徒40名が、1年半進めてきた課題研究の集大成として、東京外国語大学・金沢大学の外国人留学生に対して英語でプレゼンテーションしました。発表会では、プレゼンに加え、質疑応答も英語で行われ、生徒はこれまでの研究を踏まえ、グループで協力して質問に答えていました。参観者からは「プレゼンテーションのスキル、特に表情が良かった」「質疑応答を英語ですており驚いた」「発表の内容が論理的で多角的な視点から考察されていた」「生徒が積極的に関与しようとする姿勢が感じられた」「司会も堂々としていた」など多くの高い評価をいただきました。



34H生徒感想 発表直前の数日間「本当に伝えたいこと」を絞り込むという過程を通じて、プレゼンの内容がどんどん良くなっていくのが目に見えてわかった。本番でも質問や意見を聞いていると、伝えたいことはしっかり伝わったのだと思って嬉しかった。この1年、思い返してみると本当に濃い研究だったなああと改めて感じた。

34H生徒感想 こちらが一方的に話すのではなく、聞き手とコミュニケーションを取りながら一緒にプレゼンをつくっているという感覚を味わうことができ、充実した時間になりました。英語での質問に答えられるか心配でしたが、事前に班員と予想して準備したおかげで慌てず説明できました。



発表会の合間には休憩を兼ねて、交流会を開きました。打ち解けた雰囲気の中、生徒は留学生と様々なトピックについて話し、日本と外国の文化や考え方の違いを感じました。

## 「聞き手と一緒にプレゼンを作れた」「質問の意図を踏まえて意見を述べられた」

34H生徒感想 私たちのグループは質疑応答の質問に答えられただけではなく、相手の質問の意図は何であるかを踏まえた上で、その事に対して意見をはっきり述べることを大切にしたり、実際に達成できたと思う。

34H生徒感想 今振り返ってみれば出来なかったことや失敗したことも良い研究の過程だと思うし、誰かと協力して物事を成し遂げるのは1人でやるよりも随分大変だけど、達成感がすごく得られたと思う。

34H生徒感想 留学生の1人がプレゼンテーションが終わった後にわざわざ私のもとに来て、「とても良かった」と言ってくれて、本当に感無量でした。凄い達成感でした。

## 先輩たちの発表に刺激

発表会には、2年SGコースの生徒も聴衆として参加しました。

24H生徒感想 以前に発表を見たときからさらに完成度が高まっていて驚きました。英語なのにすごく堂々としていてカッコ良かったです。特に質疑応答では、自分がどれだけ英語力やコミュニケーション力が無いかを考えさせられました。来年は自分もあんなふうになりたいという目標ができ、モチベーションがとても高まりました。

## エンパワメント

### 留学生に発表 2年SGコース

2年SGコースの生徒が課題研究について発表する「エンパワメント」が、12日(金)、成果発表会の後に行われました。

生徒は東京外国語大学や金沢大学の留学生に対して、SG探究の授業で進めてきた課題研究の内容を英語でプレゼンテーションしました。質疑応答では、質問に答えるだけでなく、留学生の母国での現状を説明してもらい、課題研究を進めるヒントを得たようでした。



24H生徒感想 自分たちの研究には具体的な部分が足りないと分かりました。「例を挙げて」とよく言われたので、実際に「行こう」と考えていければいいと思いました。また、行き詰っていた部分に関する良いアイデアをもらいました。

# 京都大学思修館研修 院生からアドバイス 2年SGコース



24H生徒感想 研修前までは、正直こんな短時間で何か学べるのかと疑問に思う部分もあったが研修を終えて、自分一人では裁ききれないような量と質の高い助言を得ることができた。それと同時に自分の知識量の少なさや大学生・大学院生の偉大さも身にしみて感じた。今日のディスカッションで情報を得られたのはもちろん、研究に対する意欲が増したのも大きな収穫だと思う。

2年SGコースの生徒たちは6月15日(土)、京都大学学院総合生存学館(思修館)にて、課題研究の進め方についての研修を受けました。思修館は、本校が目指す文理融合、異文化統合をよりハイレベルで実践をしている日本で注目の大学院です。

この研修は、SGコースの生徒が課題研究のテーマ設定や研究計画について大学院生から助言を得ることと、目指すべきロールモデルに触れ、リーダー・研究者としてのあり方を学ぶことを目的に毎年行われており、今年で4回目となりました。

課題研究の8つのグループにそれぞれ院生が一人加わり、生徒たちはリサーチクエスチョンや仮説の設定の仕方、今後の研究の進め方について学びました。生徒達にとって新たな視点を手に入れ、今後の研究の意識を高める機会となったようです。



## 「質の高い助言」「いい刺激に」

24H生徒感想 自分たちの研究がかなり抽象的なものだと感じました。実際に研究に取り組んでいる人たちは視点が違うなと思いました。アンケート調査もなんとなく考えていたけど、アドバイスを受けてより研究を効果的にできるアンケートが作れそうです。最先端の研究をしている人たちの話を聞き、とてもいい刺激になりました。

24H生徒感想 本当に楽しい時間だった。「巨人には小さく対抗する」という言葉は、テーマ設定で行き詰まっていた私にとって、新しい考え方だった。ディスカッションではもやもやしていたものが少し解消したように思われるし、この先何をすべきかが見えてきた。大学院生の方は研究の土台をととても大切にしている、私たちの班のリサーチクエスチョンは飛躍しすぎていたと分かった。



## 初キャンパスツアー 1期生9人がガイド

今回は、初めての試みとして、本校SGコース卒業生の案内による「京都大キャンパスツアー」を併せて実施しました。

SGコース1期生で京都大学と東京大学の学生9人が、京都駅から京都大学までを生徒と一緒にいき、キャンパス内を案内しました。その後の思修館研修にも飛び入り参加し、大学生の視点で、生徒たちにアドバイスを送っていました。



## おもてなしガイド 2年SGコース 留学生をご案内 in 金沢



留学生を連れて金沢を案内する「おもてなしガイド」が成果発表会の翌日の7月13日(土)に行われ、2年SGコースの有志15名が東京外国語大学の留学生4名を連れて、金沢の観光地を案内しました。

今回のガイドプランは、6月8日(土)のワークショップで「言葉」「水」「色」をテーマに生徒がグループごとに考えたものです。

「水」のグループは、ロシア人女性のカシモワ・ヴィクトリアさんとチェコ人男性のネシュポル・フィリップさんを連れ、兼六園を散策し、霞ヶ池や噴水を案内したほか、水占みができる石甬神社を訪れました。

24H生徒感想 今回は留学生の日本語能力に助けられたので、アメリカ研修ご行くまでに実践的な英語力を身に付けられるよう努力したい。また、金沢を観光客の目線で見ると、知らないことにたくさん気付いた。

